

お知らせ

平成 17 年 9 月 22 日

気象庁観測部

○積雪計整備官署における「降雪の深さ」について

従来、気象官署における「降雪の深さ」の観測には雪板を用いていましたが、平成 17 年 10 月 1 日から、積雪計整備官署においては積雪計を用いて「降雪の深さ」の観測を行うこととします。

観測通報の回数などの変更はありませんが、日原簿など統計値ファイルの「降雪の深さ」には特別（24 回）の値を格納します。

雪板による観測値と積雪計による観測値は、月合計値など一定期間値を集計した場合、系統的な差が見られることがあります。このため、積雪計により観測する値に合った平年値や階級区分値を作成しました。該当官署の新しい平年値は、気象庁月報 7 月号（9 月末刊行予定）に収録します。

積雪計による「降雪の深さ」を平年と比較するような場合には、変更した平年値を用いるようお願いします。

○アメダスの「日照時間」について

現在、アメダスの日照時間観測は太陽電池式日照計を用いています。一方、気象官署（155）では太陽追尾式日照計（一部直達日射計）を用い日照時間観測を行い、全 844 地点のアメダス日照時間データとしても利用しています。太陽電池式とそれ以外の測器は観測特性が異なるため、分布図など異なる測器による日照時間の統計値を比較するような場合のために、換算表を提供しています。

89 地点のアメダス観測所の観測機器更新整備を 10 月 24 日から 12 月にかけて実施しますが、日照時間観測に用いる測器を観測精度向上のため回転式日照計を用いることとします。今般、新たに 89 地点の観測測器が変更となるのを機に、より長期間のデータを用いデータの比較を行い換算方法の見直しを行いました。

83 地点（統計に必要な期間が揃っていないなどの 6 地点を除く）のアメダス日照の平年値は、換算式を用いて過去の観測結果から新しい測器の値を推定したうえで再作成することとします。該当アメダス地点の新しい平年値は、気象庁月報 8 月号（10 月末刊行予定）に収録します。

回転式日照計と太陽電池式日照計による観測値を同一地図上にプロットする場合や測器が変わった地点の過去との比較を行う場合は換算式を活用ください。

○高層気象観測の気温・湿度観測点資料について

CD-ROM等に掲載している気温・湿度観測点資料の観測点数は136点を上限としています。近年、開始したGPSゾンデによる観測では、細かなプロファイルの観測が可能となり、136点を超える気温・湿度観測点数が報告されるようになってきました。現在は、上限を越える観測点を間引くことにより観測点数を136点以下にしていますが、観測データの分解能を落とさないため観測点数を増やすことが望ましいため、11月1日から観測点数を136から200に変更することを予定しています。ファイルのフォーマットは後日提示します。